

アクセス方法
 <電車>
 JR内房線「青砥」駅からバスで約15分。
 <車>
 京葉道路、南関東自動車道または東京湾アクアラインを経由し、船山自動車「木更津南（富津岬方面出口）」から国道16号線で約15分。

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 170

のり育む岬
 ～千葉県 富津市～

2014年12月21日(日) 放送



千葉県富津市でのり養殖を行う家では、自宅にある作業場で生ののりから四角の板のりに加工します。昭和の半ばに東京湾が埋め立てられてからは、「江戸前」の海が温まると海の流れが複雑になり作業しづらくなるからです。網から垂れたのりを、へきについた機械で刈り取ります。このとき、船の速度を一定に保つて網に10センチメートルほど、のりを残すようにします。やがて残した部分は成長して、摘み取れるようになります。

自慢の板のり

旅の見どころ 3

房総半島の南部、東京湾に突き出すようにある千葉県富津市の富津岬。

初冬、岬の周辺では、のり漁が始まります。のりの摘み取りをするのは「もぐり船」という独特な形の船。沖に張ったのり網をくぐるようにして行のが富津のこの時期ならではの風景です。夫が取った生ののりは、自宅の工場で妻が板のりに加工していきます。港近くの鉄工所では、この時期、もぐり船の修理に追われ、のり漁を支えます。のり漁でにぎわう町を訪ねます。



もぐり船

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

のり漁でにぎわう“富津岬”

富津岬の南側にある富津漁港下洲（したづ）地区には、のり養殖に使う船がずらりと並んでいます。どの家も5艘ほど船を持っていて、細かな作業に使う「てんま船」やのりの網を洗うための船、そしてのりの網を持ち上げてのりを刈り取る「もぐり船」などが、漁師の家ごとにきれいに並んでいます。富士山の半分ほどを雪が覆うと、のりの摘み取りの季節を迎えます。富津岬では、およそ100軒がのり養殖を行っています。

